

(2) 試合開始前の選手の負傷等による変更の取り扱い

打順表交換後試合開始前の間に、打順表先発記載選手が負傷、または急病のため先発出場が不能となった場合、控え選手を出場させることができる。この場合出場不能になった選手は回復すれば試合に出ることができる。（一旦メンバー表交換をしているが、このようなケースの場合に限り罰無しで先発メンバーの変更を認める規約です）

(3) 試合時間制の採用

① A級の大会

90分を超えて新しいイニングに入らない。

② B級の大会

80分を超えて新しいイニングに入らない。

③ C級の大会

70分を超えて新しいイニングに入らない。

(4) 同点で抽選か特別延長戦となる場合

① 同点でイニングを終了し試合時間を超えている場合

延長戦を行わず抽選とする。但し本協議会特別ルールで準決勝、決勝は時間内、

時間超えを問わずA級は最大2イニング、B級・C級は1イニングを限度に特別延長戦を行う。

特別延長イニングを終了しても勝敗が決しない場合は、抽選で勝敗を決める。

平成29年11月28日代表者会議

② 6回を終了し試合時間を超えていない場合（1回戦～準々決勝）

特別延長戦とし、A級最大2イニング、B級・C級は1イニングを行う。但し試合時間を超えて新しいイニングに入らない。勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決める。尚、準決勝、決勝は時間に関係なく最大2イニング特別延長戦を行う。

(5) 得点差によるコールドゲーム及び試合成立

① A級4回10点差、5回7点差・B級4回7点差の生じた場合とする。但し優勝戦は除く。

② C級は3回10点差によるコールドゲームとする。

③ 試合の成立はA級5回・B級は4回・C級は3回終了をもって成立する。

令和6年2月4日代表者会議で決定

(6) 抽選となった場合の抽選方法（A級・B級・C級共通）

- ① 抽選方法は『大会開催要項』に掲載する。（方法は県大会も同様）
- ② 抽選用紙は、大会本部で用意したものを使用する。

(7) 特別延長戦の打順

特別延長戦は継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とし、無死一塁・二塁の状態にして、投手の投球制限を遵守の上、1イニングを行い得点の多いチームを勝者とする。1イニングで勝敗が決まらなかったときは更に継続打順でこれを繰り返す。

(8) 降雨等での試合続行の判断、処置について

降雨等で5回未満にグラウンド不良により試合継続が不可となった場合や他の原因でグラウンドが使用できない事態が生じた場合には「大会実行委員」で協議の上次のような処置を講ずる。

- ① 当該試合を当日に他の会場に移して行う場合『特別継続試合（当該試合を場所変えて継続）』を適用する。
- ② 当日、他会場が確保できない。雨がやまない等で中止決定となった場合日時を変えて『再試合』とする。

(9-1) フェンスラインについて

県軟連学童部取り決め事項を本協議会も採用する。

フェンスライン（県軟連学童部）
<p>① 危険防止等のため、ファウルラインの外側に引く補助ライン（ベンチ前など）の呼名をフェンスラインとする。</p> <p>② フェンスライン周辺のプレイについては、次の通りとする。</p> <p>（1）ラインの内側とは、地面に接した体が完全にライン内にあることをいう。</p> <p>（2）ラインの外側とは、地面に接した体の一部がたとえ少しでもラインに触れるか、ラインの外に出たことをいう。</p> <p>（3）いずれの場合においても、球（ボール）の位置には関係ない。</p> <p>（4）ベンチ前のラインおよびダッグアウト（ベンチ）の前縁は、フェンスラインと同じ扱いとする。</p> <p>【ケース】</p> <p>1）飛球をラインの内側で捕球すれば、アウトである。</p> <p>2）飛球をラインの外側で捕球すれば、ファウルボールである。</p> <p>3）飛球をラインの内側で捕球し、その後ラインに触れるかラインの外側に出た場合は、打者をアウトにし走者には1個の塁を与える。</p> <p>4）投球がラインの外側出れば、走者に1個の塁を与える。</p> <p>5）送球がラインの外側に出れば、走者に2個の塁を与える。</p> <p>6）フェアの打球がラインの外側に出れば、エンタイトルルツーベースとする。</p>

(9-2) 外野フェンス（本協議会では呼名をホームランネットとする）に関し以下の通り取り決める。

特別ルール：『倒れたネット上でのプレイはインプレイとする』

- ホームランネット（以後ネットという）に選手が触れるなどしてネットが倒れたとき、倒れたネット上でのプレイはラインの内側と解釈することを取り決めたものです。

令和3年11月30日代表者会議

【その他ホームランネット周辺で想定されるプレイのケース】

- 1) インフライトでネットを超えれば「ホームラン」である。
- 2) インフライトの状態でもネットの上段に触れて超えた場合「ホームラン」である。
- 3) インフライトでグラブに触れインフライトの状態でもネットを超えた場合「ホームラン」である
- 4) 捕球後ボールデッドゾーンに倒れこんだ。「アウト」である。無死・1死でランナーがいる場合1個の安全進塁権を与える。
- 5) ワンバウンド等インフライトの状態ではなくネットを超えた場合、2個の安全進塁権を与える。
- 6) 外野フェンスのポール（フェア、ファウル判定）設置不可能な場合、ネットを超えてボールの飛ぶ可能性ある所までファウルラインを引きインフライトで飛んだ打球がファウルラインの外側に落ちれば「ファウル」内側に落ちれば「ホームラン」である。
- 7) ここに記載のないケースが発生したときは、審判員が集まって協議しその決定については従うものとする。

参考 [野球規則 5.09a 原注1]

・・・略・・・ダックアウトまたはボールデッドの箇所（ホームランネット含む）に近づいて飛球を

捕らえるためには、野手はグラウンド（グラウンドの縁を含む）上または上方に片足または両足を置いておかなくてはならず・・・略・・・。

(10) 臨時代走

試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断したときは、相手チームに事情を説明し、臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。

臨時代走は、その代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。

臨時代走者に替えて別の代走を送ることはできる。この場合負傷した選手に代走が起用されたことになり、負傷選手は以後出場できない。

① 打者が死球などで負傷した場合

投手を除いた選手の内、打撃を完了した直後の者とする。

② 塁上の走者が負傷した場合

投手を除いた選手の内、打撃を完了した直後の者とする。

【①のヒット・バイ・ピッチについて】

打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、その程度を問わず臨時代走の処置を行う。

2023 競技者必携改訂 令和 5 年 11 月 24 日代表者会議で採用決定

- (11) 公認野球規則 5.11 (a) 指名打者制度を 2024 年度から導入する。但し 2023 年度の新制度（属に大谷ルール）は採用しない。

令和 6 年 2 月 4 日 代表者会議決定

第 11 条 （その他競技に関わる取り決め事項）

（１）審判員に対する抗議

- ① 審判員に対する抗議は、監督のみに与える。
- ② 講義は、審判員の規則適用に誤りがある場合にのみすることができる。

（２）登録選手の誤記、登録外選手の判明した場合の取り扱い

- ① 試合前の打順表交換時点で、登録原簿照合により誤記に気付いた場合。

【処 置】

出場選手、控え選手を問わず、氏名・背番号の誤記の場合、注意を与えて書き直させる。罰則は適用しない。登録原簿以外の選手が記載されていた場合も同様とする。

- ② 試合中に誤記が判明した場合。

【処 置 １】

登録選手間の背番号の付け違いは、判明した時点で正しく改めさせ罰則は適用しない。

【処 置 ２】

登録外選手が判明したときは、実際に出場する前であればその選手の出場を差し止め、ベンチから撤去させ、チーム自体の没収試合とはしない。

【処 置 ３】

登録外選手が試合に出場、これがプレイ後に判明したときは、大会規定により試合中であれば没収試合とし、試合後であればそのチームの勝利を取り消し相手チームに勝利を与える。

但し処置 3 は

- ① 登録外選手が自チームの所属以外の選手であった場合に適用することとする。
- ② 単純なミスの場合（監督とマネージャーとの連絡ミスで、登録外選手が自チームの所属選手である場合など）には適用しない。
  - 1) 試合中に判明した場合は、その時点で打順表に記載されている選手に交代させ試合を継続する。それ以前の当該選手のプレイはすべて有効とする。
  - 2) 試合後に判明した場合でも、当該選手のプレイはすべて有効とし処置 3 は適用されない。

2018 年 1 月 12 日アマチュア野球規則委員会通達 2018 年 6 月 26 日代表者会議

第 12 条 （チーム審判員の資格・服装・審判放棄（忘れた場合も含む））

- （１） 公式大会の審判員の割り当ては大会実行委員会（抽選時）で決める。
- （２） 公式大会の審判員は『審判証』を試合開始予定の 30 分前までに大会本部に提出すること。
- （３） 『審判証』は、公式大会の審判員としての資格を表するものとして交付する。  
『審判証』を持たない者は公式大会で審判ができない。

（４） 『審判証』の交付

- ① 毎年審判部が実施する「審判講習会（球審または塁審講習）」を受講された者。
- ② 審判部長が審判資格を十分備えていると認めた者
- ③ 県軟連学童部に登録されている者及び公認審判資格級を持っている者。

（５） 審判員の服装

公式大会での服装は審判員として相応しいものとし以下のように定める

注意：ジャージ、クラブの T シャツ等は認めない。上着は必ずズボンの中に入れる。

【 服 装 】

- ① ズボン グレー系のズボン（審判用品でなくても可）

- ② 上 着 白カッターシャツ（長袖、半袖可）

白系ポロシャツ（長袖、半袖、ワンポイント可）

ネイビーブルー（濃紺色）半袖襟付きポロシャツ（県大会派遣審判服）

\*将来的にはネイビーブルーの審判服に統一方針、当面は従来も可とする。

\*公認審判員のワッペンを付けること。（ワッペンは協議会で用意する）

